東広島市こども計画(概要版)

基本理念

※ウェルビーイング: 身体的・精神的・社会的に幸せな状態を指す概念

つながる つなげる 育ちあいのまちづくり ～ともに支え ともに育つ こども・若者のウェルビーイングがかなうまち 東広島～

こども、保護者、支援者が「つながり つなげる」支えあいの中で、こども、親、地域がともに「育つ」ことの重要性から、本計画の基本理念を前計画から継承し「つながる つなげる 育ちあいのまちづくり」とし、こども・若者がウェルビーイングな状態(身体的・精神的・社会的に幸せな状態)で生活を送ることができる社会(＝こどもまんなか社会)の実現を目指します。

《施策体系》第3章・第4章

基本目標	基本施策	主な取組み
基本目標1 安心してこどもを産み育てられる支援の充実	(1) 東広島版ネウボラ(切れ目のない子育て支援)の充実【重点】	妊娠・出産・育児の切れ目ない支援、子育て支援拠点の整備、子育て情報提供体制の強化、思春期健康教育
	(2) 産科・小児科医療体制の充実	妊婦やこどもに関する医療体制の充実、適正な医療機関の受診についての啓発、こどもの病気の予防
	(3) 子育て世帯の経済的負担の軽減	子育て世帯への経済的支援(医療費、健診費用、育児用品の支給等)の実施
基本目標2 社会的な支援が必要なこども・若者への支援の充実	(1) 児童虐待の予防と早期対応【重点】	児童虐待の予防・早期発見、DV被害者の支援、人権教育・啓発の推進、子育て相談体制の強化
	(2) 障がいのあるこども・若者と家庭への支援	障がいのあるこども・若者や親への支援、経済的負担の軽減、相談体制の充実
	(3) 貧困等、困難な状況にあるこども・若者と家庭への支援	ひとり親家庭への自立支援の充実、ひとり親家庭の経済的負担の軽減、生活困窮家庭への支援、関係機関の連携強化
	(4) 様々な課題を抱えるこども・若者と家庭への支援	不登校・ヤングケアラー等への支援、ジェンダーアイデンティティへの理解促進、自殺対策、外国につながるこども・若者と家庭への支援、相談体制の強化
基本目標3 仕事と子育てを両立するための支援の充実	(1) 年間を通しての待機児童の解消【重点】	幼稚園、認定こども園、保育所(園)の充実、放課後児童クラブの充実、保育人材の確保
	(2) 多様な保育ニーズへの対応	地域子ども・子育て支援事業の実施、子育て関連施設の環境改善
	(3) 働く女性の応援と働き方改革の推進	働き方改革の推進、働く女性の応援
基本目標4 こども・若者を支える地域の子育て支援力の強化	(1) 地域における子育て支援の充実【重点】	子育て支援拠点での支援、見守り・支えあいの促進、市民協働のまちづくり、包括的相談支援体制の構築、コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進
	(2) こども・若者と子育て家庭にやさしい社会づくり	子育てサポーター等の養成、子育て支援者や子育て当事者のネットワークづくり、こどもまんなか社会に向けた機運醸成
	(3) こども・若者が安心・安全に過ごせる環境づくり	子育て家庭が暮らしやすい環境の整備、こども・若者を守る仕組みづくり、安全教育の推進、こどもが安心・安全に過ごせる居場所の整備
基本目標5 こども・若者の健やかな成長と自立への支援の充実	(1) 生きる力を育む教育・保育の推進【重点】	家庭教育支援の推進、読書活動・食育の推進、幼保小連携の推進、保育・幼児教育の充実、未来の学び推進事業の実施、こどもの健康・体力づくり
	(2) 若者の自己実現を支援する取組み	思春期健康教育・キャリア教育の実施、青少年の主体的活動の推進、大学生等の市内企業への就職支援、まなびなおし等求職者支援の実施
	(3) こども・若者の意見表明の機会の確保	こども・若者の意見表明の機会の確保

《教育・保育・子育て支援事業の量の見込みと確保方策》第5章

市総合計画前期計画における人口推計と保護者へのニーズ調査結果に基づき、子ども・子育て支援法における幼児教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」と確保方策について定める。
 ※今後、総合計画後期計画(現在策定中)における人口推計を勘案して、調整する。

《計画の推進にあたって》第6章

計画の推進にあたっては、庁内の関係部局及び各関係機関・団体・地域と連携・協働を図りながら取組みを推進する。
 学識経験者・子育て支援関係者・保護者等の参画による「子ども・子育て会議」において、年度ごとに計画の数値目標に対する進捗状況の点検・評価を行う。

《こども・若者を取り巻く現状と課題》第2章

こども・保護者等へのアンケート調査や各種データの分析、子ども・子育て会議委員の意見等に基づいて整理

① 子育てに不安や悩みを持つ保護者に切れ目のない支援を行う必要がある

- ・子育てに不安のある保護者が増加している(H30:46.9%⇒R5:50.9%)
- ・子育ての相談相手がいない保護者が増加している(H30:5.5%⇒R5:13.1%)
- ・産科・小児科医療が不足している
- ・経済的な負担から理想の数の子を持たない世帯がある

② 社会的な支援を必要とするこどもに対する支援体制を充実させる必要がある

- ・児童虐待相談件数の増加(R1:246件⇒R5:383件)
- ・発達障がい等による特別な支援が必要な子の増加
- ・外国につながる児童、不登校、ヤングケアラー等、多様な課題を抱えるこどもへの支援が求められている

③ 仕事をしながら安心して出産・育児ができる環境を整備する必要がある

- ・年度中途や育休退園等、保育ニーズに対応できていない状況がある
- ・放課後児童クラブの利用が増え、待機児童が発生している(待機児童数 H30:0人⇒R5:72人)
- ・男性の育休や子育て休暇の更なる取得促進が必要

④ 地域の身近な場所での子育て支援やこどもの居場所の確保が必要である

- ・転入者が多く、地域とのつながりが薄い(転入者数:県内第3位)
- ・子育ての相談相手がいない保護者の増加【再掲】
- ・こども・若者が安心・安全に過ごせる居場所が求められている

⑤ 生きる力を育む教育・保育を推進するとともに若者の自己実現に向けた支援が必要である

- ・将来活躍する力を身に付けられる教育・保育の推進が、こども達から求められている
- ・早期に離職する若者が多い等、若者の自己実現に向けた支援が必要である
- ・こども基本法を踏まえて、当事者であるこども・若者の意見を施策に反映させる取組みが必要である